

## 房総半島の鎌倉時代を訪ねて ～頼朝伝説と日蓮上人史跡～

2017年11月1日(水)

### 行程表

新百合ヶ丘 ( 8:00 出発) = 港北インター = 海ほたる (休息 15分)  
= 君津 IC = 鹿野山神野寺 (10:25~11:05) 見学 40分 =  
仁右衛門島 (11:55~12:55) 往復を含め 60分 = 房総美味しいもの屋藤よし  
(昼食 13:10~13:55) = 清澄寺 (14:20~15:00) 40分  
= 誕生寺 (15:15~15:45) 30分 = 君津 IC  
= 海ほたる (17:05~17:20) = 都筑 IC  
= 新百合ヶ丘 (18:40頃) = 柿生 (18:50頃)

集 合 7時45分 新百合丘駅北口 区役所前路上  
バスへの乗車は、トエンティ・ワン側です。

出 発 8時00分 (裏ページの座席表をご確認ください)

持ち物 しおり、飲み物等、持薬、天候により雨具、緊急時連絡先  
メモ、筆記用具、

担当者連絡先 080-5513-5154 小林

090-8515-8535 小倉

## 鹿野山神野寺（かのうさん・じんやじ）

鹿野山とは、白鳥峰（東峰、379m）・熊野峰（中央峰、376m）・春日峰（西峰、352.4m、1等三角点）の3峰の総称で、上総地方の最高峰です。白鳥峰直下の南面には、景勝地として知られる九十九谷展望公園があります。ここにも立ち寄りたかったのですが、時間の関係で諦めました。目的地の神野寺（じんやじ）は熊野峰の直下にあります。春日峰には国土地理院の測地観測所があります。

さて、目的地の神野寺は、聖徳太子によって創建されたと言い伝えられる関東最古の名刹です。寺伝によれば、平安初期の857年（天安元年）に慈覚大師によって再興され、以後鎌倉時代にかけては、天台宗の道場として栄えたと言われます。その後再び荒廃しましたが、戦国時代に里見氏が再興をはかり、その後を家康が引き継ぎます。1590年関東に居を移した徳川家康は、神野寺に禁制を定めた朱印状を与えて、手厚く保護しています。朱印状には、当地を訪れる軍勢に対し、寺や寺領に対する略奪等の狼藉や放火などの乱暴な行為を働くことを禁じる旨が記されていました。史料館にある秀吉のご朱院状と良く似た内容です。家康はこのご朱院状を交付した翌年、神野寺に対し、10万石の大名格を寄進しています。その後も火災などにより堂宇が焼失したり、朽ちたりする度に、幕府は近隣大名などに、再建を命じています。

最近では、1917（大正6）年9月の台風によって、樹齢数百年の杉の巨木数十本が倒れ、仁王門や表門等が倒壊しました。その後再び再興しています。

現在は、真言宗智山派に属し、東京ドーム3個分の敷地の中に、仁王門、本堂、経堂、六角堂、鐘楼、五重の石塔、天満宮、奥の院、表門、宝物殿などが、点在しています。宝物殿は、全員で見学します。

神野寺は、1979年（昭和54年）8月3日に当時、寺の境内に併設されていた動物園で飼育されていたトラ3頭が逃げだした事件がありました。



神野寺本堂



聖徳太子像(16歳当時)



ご神木の犬銀杏

## 仁右衛門島

鴨川市太海から200mの距離にある、千葉県で最大の島。周囲約4km。島主の個人所有。島主は代々平野仁右衛門を名乗ることから、仁右衛門島と呼ばれる。現在の島主、平野仁右衛門氏は、第38代目と推定されています。夏は涼しく、冬は暖かい自然の楽園。風光明媚で新日本百景にも選ばれている。

治承4年（1180年）、石橋山の戦いに敗れた源頼朝が安房に逃れ、この地の豪族、平野仁右衛門に助けられ、この島に身を隠して平家軍の追及を逃れ、巻き返しを図ったと言い伝えられる。やがて平家に勝利した頼朝が、自分を匿ってくれた平野仁右衛門の功績を忘れず、島と島周辺の漁業権を仁右衛門に与え、この権益は末代まで仁右衛門家のものであ

り、誰も手をつけてはならないと命じたと伝えられます。以後、現在に至るまで平野仁右衛門一族がこの島を守り伝えています。島の東部には日蓮が朝日を拝したと伝えられる神楽岩や石橋山の戦いに敗れた源頼朝が、夜襲を避けて潜伏したとされる洞窟があり、正一位福女稲荷大明神が祀られています。

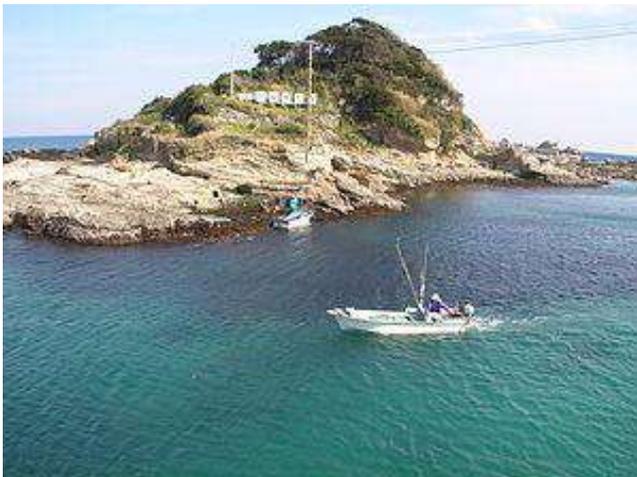
平野家は現在も島の住居に住んでおり、その家屋は渡船で島を訪れる観光客に公開されています。なおその家屋は、宝永元年（1704年）に建て直された家屋で、313年前の建物です。

平野家の住居、亀岩、神楽岩、芭蕉塚、源頼朝の隠れ岩などの見どころがあります。観光バスは太海のフラワーセンター駐車場に置き、徒歩で太海漁港に向かい、約5分程手こぎ船に乗って島に上陸します。

太海と仁右衛門島は、怪獣映画の舞台となったこともあり、またつげ義春の漫画『ねじ式』にも登場します。なお太海唯一の旅館、江澤館は安井賞の安井曾太郎画伯が、画伯の風景画の傑作、外房風景を描いた宿として知られ、アトリア旅館の愛称で、今も若い画家たちが訪れています。



平野仁右衛門家



仁右衛門島の船着き場



亀岩から見た太海漁港

## 誕生寺

日蓮は、1222年（貞応元年）2月に安房小湊に生まれ、1282年（弘安5年）10月に満60歳で亡くなっています。誕生寺は、弟子の1人日家が、日蓮が身延山の久遠寺にあった1276年に、日蓮の生家跡に建立した寺院です。

ただし、日家が建立した誕生寺の所在地は、現在の誕生寺の位置ではありません。当初の誕生寺は、1498年（明応7年）の明応地震と1703年（元禄16年）の元禄地震の2度の大地震、大津波によって失われ、現在地に移転されたのです。日蓮の生家跡と伝承される地は、今は海の中なのです。

津波で失われた誕生寺は、26代日孝が水戸光圀の力添えで七堂伽藍を再興し、小湊山誕生寺と改称したのですが、1758年（宝暦8年）に、仁王門を残してまとも焼失、1842年（天



祖師堂

保 13 年) に 49 代の目闡が現存する祖師堂を再建しました。時移りて近代に入り、大正天皇の病氣平癒の廟所が建立された。その後、昭和から平成にかけて、50 万人講を発願して諸堂を復興、1992 年 (平成 4 年) 5 月に落慶法要が行われています。

山内には、幼少期の日蓮像や祖師堂など日蓮に関わる施設が多く、1706 年 (宝永 3 年) 建立の仁王門は、宝暦の大火で奇跡的に焼け残った誕生寺最古の建造物です。2 体の金剛力士像は松崎法橋の作、楼上の般若面は左甚五郎の作と伝えられています。1842 年 (天保 13 年) 建立の祖師堂には、日蓮上人像が安置されています。なお、誕生寺については、明治・大正を通じて皇室とりわけ天皇家の女性たちの信仰が厚く、とりわけ祖師堂内の天蓋などの仏具類は明治天皇の生母中山慶子様や大正天皇の生母柳原愛子様が寄進された品々です。堂内右手の天井画、天女像と共にご覧ください。

なお本堂は、平成 3 年に再建された新しいものですが、水戸光圀公が寄進された十界本尊木像や 82 枚に及ぶ仏教植物の天井画が知られます。是非しっかりとご覧になって下さい。なお、本堂を再建した平成 3 年の工事の際に、祖師堂の日蓮像も修理する事になり、像を解体したところ、胎内から 4 代日静筆の古文書と薬草が発見されました。古文書には「生身の祖師」の名と宗祖誕生の時と所が記されていたことから、日蓮誕生の地が特定されました。



仁王門



誕生堂

## 清澄寺

清澄寺は、日蓮上人が「法華経」こそが末法の世のすべての人々を救うことのできる唯一の経典であるとの確信を持ち、法華経の伝道に生涯をかける決意を固め、伝道の道への第一歩を踏み出した寺として、日蓮宗の聖地になっているお寺です。

日蓮は、1222 年 (貞応元年) 2 月に安房小湊に生まれ、1233 年 (天福元年) 11 歳の時に生家に近い清澄寺に入って道善師に入門、薬王丸と改名しました。16 歳で正式に得度し是聖房蓮長と名乗りを変更しました。

この時日蓮は、寺の本尊である虚空蔵菩薩に「日本第一の智者となしたまえ。」と祈願、



清澄寺本堂 (摩仁殿)

寺を出て、関東全域さらには関西圏にまで、勉学の足を伸ばし、鎌倉から比叡山へ、さらには高野山にも赴いて、ひたすら勉学三昧の日々を送りました。この間、薬師寺、三井寺、仁和寺、天王寺、東寺にも学びのために立ち寄っています。

そんな日蓮は、16年近くに及ぶ修行を経て、1253年2月、師の道善坊の待つ清澄寺に帰山します。それから2ヶ月、同年4月28日朝、日蓮は日の出を迎える東の空に向かって、朗々と「南無妙法蓮華経」と法華経のお題目を唱えて、立教改宗を遂げます。同日昼には、清澄寺持仏堂にて、最初の説法を行い、この日から日蓮を名乗るようになりました。

日蓮は、翌年清澄寺を出て鎌倉に上り、あちこちで辻説法を行うに至ります。1260年（文応元年）『立正安国論』を著し、浄土宗や禅宗を邪教として厳しく批判、他宗の恨みを買って、何度もの流罪と赦免を繰り返す、困難な日々を送りますが、蒙古襲来を予言して、幕府に対策を求めるなど、当時の国際情勢に対する透徹した視野を持つなど、優れた人物でもありました。



日蓮上人銅像



中門(1647年建立、昔の姿を残しています)